2024年5月　180号

VEC　てんこもり

一般財団法人
ベンチャーエンタープライズセンター
関西支部

澤村佳宏様を偲んで

<2013.4月 カンボジアにて>

令和６年２月26日、澤村佳宏様は７ヶ月の闘病生活を経て食道がんでご逝去されました。
いまだに信じられません。謹んでお悔やみ申し上げます。

澤村さんとの出会いは東海銀行梅田支店で澤村さんは貸付係、私は得意先係からですので、50年来のお付き合いとなります。当時の支店長を中心に梅田会（親睦会）が発足し長年続いていましたが、常に中心となって活躍されていました。
澤村さんは東海銀行の支店長を数ヶ店経験された（磐田・大阪京橋・四条大宮等）後、キャピタル会社へ転籍、その後、VECの事務局長として長年活躍されてきたのは皆様ご承知のことです。
澤村さんにお世話になった方は数知れません。常に仕事・プライベートの相談相手になり、幅広い人脈と人柄で救われた方々は多数と推測いたします。
私はここ20年以上、常に澤村さんと一緒に行動を共にし、可愛がっていただきました。
８年前には「一般社団法人ベストビジネスセンター」を共同代表として設立し、企業のマッチング等に積極的、精力的に行動されていました。
東海銀行梅田支店時代からシンガポールを皮切りに海外旅行を計画しブルネイを最後に東南アジアはすべて制覇し、通算21回の海外旅行を経験させていただきました。海外旅行は「経済文化視察団」を結成し、私が澤村さんから団長を指名され本当に楽しい癒された旅行をすることができました。澤村さんのお蔭です。感謝・感謝です。
昨年３月にインド、７月に台湾が最後となり、その後、イントン生活（澤村さんの弁）に入られ、メールのみの連絡となり、VEC新年交流会の様子等を連絡したのが最後となりました。
今年は体調が回復され念願の「澤村画伯の個展開催」と「ベトナム・タイの海外旅行」の実現を信じていましたが、帰らぬ人となってしまいました。
改めまして謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

一般社団法人ベストビジネスセンター　代表理事　山下太一郎

大阪滋賀県人会の概要とＶＥＣさんとの交流

初めまして、２年前まで大阪滋賀県人会の事務局を担当していました橋本です。
今回、投稿依頼がありましたので当会の概要とＶＥＣさんとの交流について紹介させていただきます。その前に２年前、当会がＶＥＣさんとのお付き合いをさせていただいた際から大変お世話になった前事務局長の澤村佳宏様の突然の訃報に接し、誠に残念で心から感謝とお悔やみを申し上げます。

（大阪滋賀県人会　新年総会の様子）

（大阪滋賀県人会　納涼盆踊り大会）

当会は滋賀県から大阪近辺に就職した方を中心にふるさとで慣れ親しんだ「江州音頭」を年に一回ぐらいは踊ろうやないかと伊藤忠商事㈱の当時社長小菅宇一郎氏が初代会長に就任、東光商事（株）の当時社長光井司郎氏のご尽力により本町界隈の繊維問屋を中心に昭和31年にスタートして来年70年の記念の年を迎えます。その間、時代の変遷によって繊維関係の企業は少なくなりましたが、現在は金融、電気、建築、情報サービス、食品、流通、金属など幅広い業種の方々に入会いただいています。会員さんは役員企業を含めて現在327名です。
当会は２大行事として１月の新年総会＆懇親会と８月の納涼盆踊り大会があり、滋賀県知事をはじめ13市６町の首長様にお越しいただき故郷との交流を深めています。その他に会員相互の親睦を兼ね、春と秋にはゴルフ会、観劇会、ハイキング会などを開催し、今年の春からはコロナ禍で中断していた日帰りバス旅行が５年ぶりに再開されます。また、昨年から当会役員の協力を得て、若手を中心にした次世代育成研究会が主催する勉強会を始めています。
また、滋賀県が大阪の百貨店などで開催する物産展への積極的な協力体制やふるさと納税の情報発信も行い滋賀との絆を深めています。これらの情報は会の行事報告と一緒に年に２回発行する会誌「近江路」に掲載しており今年で100号を数えます。会誌は毎回2,300部を印刷して会員、県の各自治体、全国の滋賀県人会、県下の幼稚園（保育園）をはじめ小、中、高校学校から大学の各校長あてにお送りしています。
ＶＥＣさんとの交流は当会副会長である（株）フジキン特別顧問の小川洋史様がＶＥＣさんの諸活動に長年ご尽力されておられることから前事務局長の澤村佳宏様が最初に入会され、澤村様のご紹介で現在12名の方々が入会下さり新年総会＆懇親会や納涼盆踊り大会、ゴルフ会その他の行事にご参加いただいています。また、ＶＥＣさん開催の新年総会には当会の役員を含む事務局や会員が、定期的に開催される若手起業家によるセミナーにも参加させていただき懇親を深めているところです。いずれのセミナーも経営者の考え方や社会に役立つ仕事をするという強い信念を持ってチャレンジされているのが大変勉強になり今後も楽しみに参加したいと考えています。
簡単ですが当会の紹介とご挨拶と致します。今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

大阪滋賀県人会　前事務局　　橋本賢一

コロナ禍後のインバウンド客の現状と今後の展望

2014年頃から訪日外国人旅行者が右肩上がりに増え始め、日本政府は2020年に4,000万人という目標を掲げていました。
そして、2019年には3,188万人に達し、このままいけば目標を達成できそうなところまできていたのです。
そんな中、2020年に入るとあっという間に新型コロナウイルス感染が拡大をしてしまいました。そのため、基本的には日本への入国ができなくなってしまったのです。

コロナ前は大阪ミナミでは外国人観光客であふれかえり、ここはどこの国だろう？という光景が当たり前になっていました。それが、一時はスーツケース軍団を全く見かけなくなり、逆に不思議な感覚を覚えたのを思い出します。
そして、2023年４月に水際対策が終了すると、再びたくさんの外国人観光客がやってくるようになり2,506万人まで回復しました。
そして、2023年12月にはコロナ前の同月の訪日外国人数を上回ったのです。そこで、今年末には4,000万人を超えると言われています。しかし、コロナ前には一番多く来日していた中国人はいまだに回復が鈍い状況です。2019年と2024年の春節を含む2月を比較すると63％にとどまっています。
それでも、昨年11月16日に日中首脳会談が行われ、ビザが緩和されたことや飛行機が増便されたことで来日する人が増えつつある状況です。

<道頓堀>

しかし、中国人に関してはコロナ前ほどには戻らないだろうという見解もあります。
オーバーツーリズムが問題になっている中で、私は訪日人数は戻らなくても良いと考えています。
それよりも重要なのは消費額です。 モノ（買い物）からコト（体験）に移行してきている状況下、いかに彼らが興味をもち好むコンテンツを提供していけるかが重要になってきます。
それにはただ単にモノを提供するだけではなくて「ココロ」がポイントです。彼らのココロをつかんでリピーターを増やしていくことが、観光の発展と地域活性につながり、ひいては日本の経済発展に寄与していくのです。 そのような魅力的なコンテンツはたくさんあり、それを探している観光客がたくさんいます。

<黒門市場>

そこで、大切なことは日本人が足元を見直す。つまり、われわれ日本人にとって普通のことが外国人にとってとても魅力的なものであることに気づくことです。そのうえで、それを彼らに知ってもらうために訴求していくことが重要です。そして、実際に来てくれた時に不安なく受け入れ、彼らには満足してリピートしてもらえる仕組み作りが必要です。そのために私共は外国人と日本人の懸け橋として、これからもお手伝いをしていきたいと考えております。

すみれナレッジ　岡部　佳子

おもてなしアイランド United Shikoku.

４月初旬に訪れた香川県高松市は、桜はすでに葉桜が混ざり、「温かい国に来たんだな」と感じずにはいられなかった。純粋な観光旅行というものから離れて久しく、いつも出張のついでに「ちょこっと観光」で自分を納得させてきたが、そんな短い時間の楽しみの中でも、今回の高松の満足度はかなり高かった。食いしん坊の私にとって、旅行中の「食」のウエイトは非常に高く、今回の楽しみは「うどん」。香川は言わずと知れた「うどん県」で、高速バスの行き先まで「うどん県」と表示するほどの徹底ぶりだ。高松のうどんの特長を強く感じることができる食べ方は、「釜揚げ」で、「お湯使いすぎやん」「火力強すぎやん」と突っ込みたくなるほどぐらぐらと煮立った釜で茹で上げられ、その茹で汁と共に提供される。かなりうどんにうるさい私だが、これは本当に美味しい。

「かけ」も悪くないが、香川に行かれたら、是非「釜揚げ」をお勧めしたい。しかし香川の皆様曰く、「香川はうどんだけではありません！」とのことで、確かに「骨付き鶏」は、あまり鶏好きではない私も美味しくいただけ、お土産に持ち帰った鶏も家族は大絶賛、そしてふらりと立ち寄った観光客向けの居酒屋でも、香川県の美味しいものをトレーサビリティと共にきっちり表現しながら、味、量、価格ともに申し分なかった。いわゆる観光客向けだからと、適当にお茶を濁すような商売をしていないのだ。
なぜ香川県のホスピタリティが素晴らしいのかを考えてみると、それはお遍路さんの文化からくるものだと気づく。四国は昔から四国八十八ヶ所巡礼をするお遍路さんを接待してきた歴史がある。そのおもてなしの気持ちが、香川県だけでなく四国全土のお店やホテルで感じられる。人がほんとうにフレンドリーで優しい、四国は素晴らしきおもてなしアイランドなのだ。

今回はSDGs志国連合国の活動推進のための高松入りだった。SDGs志国連合国は、今から３年前に一般社団法人SDGsソーシャルデザイン協会の代表理事、都築冨士男氏が四国四県の抱える課題を解決すべく立ち上げた団体だ。国名を「四国」ではなくあえて「志国」としたのは、四国四県が志を一つにして地域を元気にしていこうという考えからだ。四国は人口減少、少子高齢化などの問題が日本全国より25年程度先行しており、課題先進地域と言われている。四国が辿ってきた同じ流れに我が国全体が向かう中、四国の抱える課題をいち早く解決することが、これから日本が進む道を明るく照らすことになると考え、連合国では様々な取り組みに着手している。今後の活動は、サステナビリティをベースに、四国の強みである観光、自然等を活かしながら課題解決を進めていく予定だが、それには地域の力と四国を応援する関係人口の力との融合が不可欠である。皆様には関係人口として、是非四国へ旅行にお出かけいただきたい。四国の人、食、文化に触れて四国を好きになっていただく事が四国の活性化につながる。私も次回は仲間と一緒に四国を旅したいと考えている。

一般社団法人SDGs ソーシャルデザイン協会　池田　祥子

〈VEC関西支部事務局だより〉
私は前・澤村事務局長とはVEC交流会で出会い又交流会の内容が非常に勉強なり、その中でも前・澤村事務局長のてきぱきした決定の速さに驚きました。 その後プライベートでもお付き合いさせて頂き、ものの考え方や判断のありかた等勉強させて頂きました。
今、思えば残念でなりません。

（一財）VEC関西支部長　山脇　雅則

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町２-３-６ 本町ビジネスビル９階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293 Eメール shib88@vec.or.jp